

令和八年度 西九州大学一般選抜「I期」入学試験問題【現代の国語】

一 次の文章を読み、あとの問いに答えよ。

世界で活躍する日本人エリート^aの皆さんのキチ^aョウなエピソードは、成功の過程には多くの失敗体験があり、かつ仕事の失敗はすべて解決可能だということも教えてくれる。

新人時代の失敗は、会社全体から見れば小さな失敗だ。コミュニケーションミス、数字のミス、仕事の優先順位の間違い、仕事の時間配分の間違いなどは、上司や同僚から指摘されて気づくものだが、これらは自分の努力次第で解決可能だ。営業の失敗、プレゼンの失敗など、はつきりと結果で示される失敗もあるが、これも仕事の結果は組織の結果でもあるから、組織の力、つまり上司や同僚の力を借りれば、挽回することができる。

新人時代の失敗として最も悔いが残るのは「挑戦できなかったのに挑戦しなかった失敗」だ。こればかりは、解決できない。ミスや間違いは取り返しがつくし、営業の失敗などはその後挽回すればいいだけが、挑戦しなかった失敗だけは自分自身の失敗なので、解決できない。今回取材させていただいた方々が皆、「若い人には挑戦してほしい」というのには、そういう意味がある。

三十代や四十代で、経営者や管理職として世界で活躍するとき直面するのは、あらたな種類の失敗だ。現地社員の人材マネジメント^ア、現地のクライアントのマネジメント、さらには事業そのもののマネジメント——新人時代とは違って重責を担っている分、どれも失敗の規模が大きくなる。しかし、これらの失敗は避けられるものではなく、結局のところ正面から向き合って解決するしかない。従業員のカイコ^b、事業の閉鎖、事業の縮小など、どれも苦渋^イの選択だが、それらを乗り越えてこそグローバル市場で成功できるのだ。

この章では、失敗を恐れる前に知っておくという知識をまとめてお伝えしたい。

「成功した」「失敗した」と決めるのは、誰だろうか？——自分の主観だ。例えば、AさんとBさんの二人が数字のデータ入力間違えて、上司に怒られたとする。同じように上司に怒られても、Aさんは「修正すればいいだけですよね。次、気をつけられないや」と思い、Bさんは「あゝ、失敗してしまった。もうこの会社でオレは終わった」と思う。

その違いはなんだろうか。期待値の違いだ。Aさんは、ミスをするのも上司に怒られるのも想定内。一方、Bさんが目指していたのは、「完璧なエクセルシート」とミスなんかしない「完璧な自分」だ。期待値を高く持たないというのは、打たれ強くなる上で大切なヨウソ^cだ。期待値が高ければ高いほど、現実とのギャップが大きくなり、「失敗した」と認識することが多くなる。その結果、負のスパイラルに落ち込むことになってしまう。しかし、期待値を高く持たない人は、そもそも「失敗した」と認識しない。すべて想定内だし、期待値が低い分、それを超えた結果が出た場合、逆に「成功した」となる。

元グーグルの石角友愛さんは、こうした期待値マネジメントがともうまい。^③それが石角さんの「挑戦し続ける人生」につながっている。

「たとえば、本を出版したとします。それが初版数千部の売り上げで終わってしまったとしても、私は『本が出せただけでもありがたい』と思うタイプです。でもきつと、『五万部売らなくては』と目標を設定して出版した人は、失敗したと認識してしまうでしょうね」

グーグルに入社した経緯^ウもユニークだ。

「絶対、グーグルに入社するという目標を立てていた訳でもありませんでした。ハーバードを卒業後、シリコンバレーに引つ越して、そこで最初に内定をくれた会社就職しようと思っていましたから。何ヶ月間も仕事が決まらなかったのですが、結局、最初に内定を出してくれたのが第一志望のグーグルだったのです」

起業した会社についても、地に足のついた目標を掲げている。

「ユーザー数何百万人を一年以内に達成する、というような目標よりも、目の前にあるタスクに集中します。もちろん、中長期的なビジョン^④はありますが、自分の心の中の不安と戦うためにも目の前にある仕事に集中することは大切です。ユーザーの声を聞いて、軌道修正しながら、ビジネスをチャクジツ^dに立ち上げていくつもりです」^エ

元BCGの方健太郎さんは、フランスを拠点に四つの会社を経営しているが、会社によって成功・失敗の基準が違う。

「たとえば、『この会社は自分にしかできない社会貢献活動の一環だから大きく儲けなくてもいい』『この会社は、ニッチな市場でナンバーワンになる』など会社ごとに成功の定義が違います。起業した会社が成功したか失敗したかを決めるのは結局、経営者の我々で、すべての会社にお金のリターンを期待しているのではないのです」

高い目標を掲げよ！ とはよく言われるが、目標が高ければ高いほど、失敗する確率も高くなる。それで精神的に落ち込むようであれば、期待値を低くして目の前のことに全力を尽くすようにするのも一考だ。その方が長期的に見れば、成功する可能性が高くなるかもしれない。結局、成功・失敗の基準を決めるのは、自分なのだから。

世界に変化をもたらしてこそ、グローバルリーダー。新しいことに挑戦してこそ、グローバルリーダー。

I

アメリカの経営大学院で「ステイブ・ジョブズのように起業してこそグローバルリーダーだ」と教えられて、卒業後実際に起業した人の中にも、「自分には耐えられなかった」と言って普通の企業に就職し直す人もいる。あるいは、「社会貢献をしたい」と卒業後、NPOの仕事でアフリカにフニン^eしたものの、「こんな環境には耐えられない。夢ばかりは追ってられない」と言って、アメリカに戻ってくる人もいる。

（佐藤智恵『世界のエリートの「失敗力」』PHP研究所、二〇一四年。設問の都合上、一部内容・表記などをあらためた）

問一 傍線部 a～e のカタカナを漢字に直せ。

問二 傍線部 ア～エ の漢字の読みをひらがなで答えよ。

問三 傍線部 ①～④ の品詞を次のなかから選べ。

〔名詞	動詞	形容詞	形容動詞	助詞	助動詞	副詞	連体詞	接統詞〕
-----	----	-----	------	----	-----	----	-----	------

問四 年齢や立場による失敗の違いを、本文に則して一〇〇字程度で説明せよ。

問五 二重傍線部「元グーグルの石角友愛さん」と「元BCGの方健太郎さん」の姿勢として当てはまらないものを次のなかからすべて選び、記号で答えよ。

- ア 石角さんは、目の前の仕事に集中し、現実的な期待値を保ちながら挑戦を続けている。
- イ 石角さんは、難しい仕事を避け失敗しないようにすることをなにより大切にしている。
- ウ 方さんがフランスで会社を運営する最大の目標は、社会貢献である。
- エ 方さんは、金銭的な利益のほかにも会社を起業する価値を認めている。

問六 空欄 I には次の A～D の文章が入る。これらを正しい順番に並べ、その順番を記号で答えよ。

- A 例えば、海外で働きたいからといって、今の会社を辞められるか。借金してまで起業ができるか。家族を犠牲にしても、海外で起業できるか。
- B ハーバード大学やスタンフォード大学でそう教えていると聞くと、自分も何か新しいことを始めなければいけないような気持ちになる。
- C これらのリスクを許容できるかどうかは育ってきた環境などによって、一人一人違うので、自分の許容量は自分にしか分からない。
- D このとき、考えなくてはならないのが、自分のリスク許容量だ。

問七 傍線部 A「失敗を恐れる前に知っておく」といい知識」について、本文の内容に則し一〇〇字程度で答えよ。

二 次の文章を読み、あとの問いに答えよ。

「本はなぜ読まなければいけないのか」という問いに対する私の考えは、まず何よりも「自分をつくる最良の方法だからだ」ということだ。

自分の世界観や価値観を形成し、自分自身の世界をつくっていく。こうした自己形成のプロセスは、楽しいものだ。しかし、この厳しくも楽しい自己形成を近年はばかにする傾向がある。とりわけ一九八〇年代以降は、その自己形成を軽んじる傾向が加速した。内容などはなくともいい、はじめなのはくだらないといった風潮が i した。その影響下で育った人たちは、真っすぐに自己形成の問題に向き合うことがしにくくなった。

しかし、自己形成の問題は、避けて通ることはできない問題だ。読書を通じてのまじめな自己形成などには必要がない、楽しければそれでいいといった風潮の中で見失われた自己形成のプロセスは、時に危うい宗教団体に求められた。

たしかに自己というものは、物のように確固たる固定的なものではない。しかし、経験と思考を積み重ねていくことによって、アイデンティティは重層的になり安定してくる。それがおよその傾向だ。オウム真理教事件の際に、ユウシユウな理系のエリートたちが数多く入信していたことが話題になった。彼らはある種自己形成の問題を、思春期から青年期にかけて棚上げしてきたツケを、一気に神秘主義を通して払おうとしたのではないだろうか。読書にしても、幅広く読み続けていけば、オウム真理教の教義などは相対化することができるはずである。

読書の幅が狭いと、一つのもを ii するようになる。教養があるということは、幅広い読書をし、総合的な判断を下すことができるということだ。目の前の一つの神秘にすべて心を奪われて、冷静な判断ができなくなる者は、知性や教養があるとは言えない。

私は大学時代、神秘主義的な団体を調査したことがある。入信している人たちは決まって、あるところで思考停止をしていた。絶対的な価値観を一つ受け入れ、他を否定する思考パターンに陥っていた。読書の幅も限られていて、自分たちの教義にガッチするものが選ばれ推奨された。それと食い違う場合には、憎むべき悪書としてコウゲキしていた。世界文学を幅広く読み、具体的な人間理解力を育てようとする傾向は見られなかった。ある種の哲学的問答には強くとも、いろいろなスタイルの人の生き方を味わうようなカンヨウな態度はなく、ある一定の生き方だけを模範とする傾向があった。

矛盾しあう複雑なものを心の中に共存させること。読書で培われるのは、この複雑さの共存だ。自己が一枚岩ならば壊れやすい。しかし、複雑さを共存させながら、徐々にらせん状にレベルアップしていく。それは、i 強靱な自己となる。

思考停止するから強いのではない。それは堅くもろい自己のあり方だ。思考停止せず、他者をどんどん受け入れていく柔軟かさ。これが読書で培われる強靱な自己のあり方だ。

教養という言葉は、ビルドゥングというドイツ語を元になっている。ドイツ語のビルドゥングには、自己形成というニュアンスが色濃く入っている。日本では教養というと、今は幅広い文化的な知識のことをさすが、自己形成のための教養という考え方が幅広く共有されていた時代があった。とりわけ大正時代に教養主義といわれる風潮が旧制高校生を中心としてリュウセイした。

教養主義の代表的なものは、大正三年刊行の阿部次郎『三太郎の日記』、大正六年の倉田百三『出家とその弟子』、大正八年の和辻哲郎『古寺巡礼』、大正十年の倉田百三『愛と認識との出発』、西田幾太郎『善の研究』（復刊）といったものだ。私自身は、一九六〇年生まれなので、A でも何でもないが、これらの教養主義の iii ともいうべき著作に、十代の終わりにあまりこんだ。そこには人格を形成していく前向きな気持ちと幅広い文化的教養へのあこがれがミックスされていた。

トルストイやドストエフスキーやゲーテ、カント、ニーチェなど、文学と哲学を中心として、人間形成に大きな影響のある書物が当然の教養として位置づけられているのが、教養主義であった。基本的な本を読んではないことは恥づかしいという意識が学生同士のテンションを高くしていた。ii 現在の日本では、何かを知らないということは、恥にはならなくなっている。

本当は恥と感じて勉強をする方がお互いに伸びるのだが、「知らなくなつて別にいいじゃない」という安易な方向に皆が向かうことで、総合的なテンションが落ちている。大学時代、友人と話していて知らない本の話が当たり前のように出てきたときに、当然知っているかのように話を合わせておいて、あとであわてて読むという、けなげな努力を私もよくした。そうしていると、その集団の中で iv ものに皆が合わせるようになっていく。それぞれが無理をして気を張りあっている中で、読書は加速する。

（齋藤孝『読書力』岩波書店、二〇〇二年。設問の都合上、一部内容・表記などをあらためた）

問一 傍線部 a～e のカタカナを漢字に直せ。

問二 次の著作は、波線部の人物の誰の著作か。解答欄に記述せよ。

『戦争と平和』 『罪と罰』 『若きウェルテルの悩み』

問三 傍線部①「それは、強靱な自己となる」に関して、「それは」の内容としてもっとも適当なものを次のなかから一つ選び、記号で答えよ。

ア 神秘主義を通じて自己を高めること

イ 複雑さを共存させながら成長していくこと

ウ 思考停止して自己を守ること

エ 絶対的な価値観を否定すること

問四 空欄 A に入る言葉を本文中から5字以内で抜き出せ。

問五 傍線部②「現在の日本では、何かを知らないということは、恥にはならなくなってきた」に関して、筆者の考えとしてもっとも適当なものを、次のなかから一つ選び、記号で答えよ。

ア 筆者は、読書は楽しみのために行えば十分だと考えている。

イ 筆者は、自己形成のためには読書よりも体験を重視すべきだと考えている。

ウ 筆者は、読書を通して多様な価値観を受け入れることが大切だと考えている。

エ 筆者は、信仰によって知識以上の充実感が得られると考えている。

問六 空欄 i～iv に入る語句の組み合わせとして正しいものを次のなかから一つ選び、記号で答えよ。

ア i 蔓延 ii 絶対視 iii 最先端 iv 一番高い

イ i 衰退 ii 客観視 iii 古典 iv 平均的

ウ i 蔓延 ii 客観視 iii 古典 iv 一番高い

エ i 衰退 ii 絶対視 iii 最先端 iv 平均的

オ i 蔓延 ii 絶対視 iii 古典 iv 一番高い

カ i 衰退 ii 客観視 iii 最先端 iv 平均的

問七 本文の内容は、大きく二つに分けることができる。後半部分の最初の一〇字を抜き出せ。なお、句読点がある場合は字数に含めるものとする。

問八 本文を一〇〇字程度で要約せよ。